

3 深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造

①節(章)の構造

節(章)を通して、見通し・振り返り学習がしやすい構造になっています。この構造により、単元のまとまりで課題解決的な学習を行うことができ、「深い学び」につながります。

【例】第2部第2章第4節「北アメリカ州」(p.96～107)

節(章)の問い

▶ 節(章)の始めには、「節(章)の問い」を設置しています。「単元を貫く問い」を明示することで、見通しをもって課題追求学習に取り組めます。

第4節の問い

北アメリカ州では、アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

学習課題

▶ 各見開きに、「節(章)の問い」に対応した「学習課題」を設置しています。

確認しよう/説明しよう

▶ 各見開きに、「学習課題」に対応した「確認しよう/説明しよう」を設置しています。

学習を振り返ろう

▶ 節(章)の最後には「学習を振り返ろう」を設けています。各見開きで学習した内容を活用して、「節(章)の問い」を振り返る中で、思考力・判断力・表現力を高めめます。

p.106「節の学習を振り返ろう」タイトル

節の学習を振り返ろう

第4節 北アメリカ州

北アメリカ州では、アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

第4節 北アメリカ州
注目する地理的課題：生産と消費の問題

北アメリカ州では、アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

北アメリカ州では、アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

1 北アメリカ州の自然環境

北アメリカ州の自然環境には、地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。

北アメリカ大陸とカリブ海の島々

北アメリカ州には、カナダ、アメリカ合衆国、メキシコからパナマに至る北アメリカ大陸の国々や、カリブ海に浮かぶキューバ、ジャマイカなどの西インド諸島の国々があります。アメリカ合衆国の西側には、標高4000mを超える高山が連なるロッキー山脈が、カナダにかけて南北に長く伸びています。東側には、標高1000m程度のなだらかなアパラチア山脈があります。二つの山脈の間には、高原状の大平原であるグレートプレーンズや、北アメリカ大陸で最長のミシシッピ川が流れる中央平原が広がります。ミシシッピ川の西側には、メキシコ湾岸からカナダにかけてプレーリーとよばれる大草原が広がり、世界的な農業地帯となっています。メキシコは、中央にメキシコ高原があり、国土の大部分が高原と山地になっています。

p.96

3 大規模な農業と多様な農産物

北アメリカ州で、農産物を大量に生産したり、輸出したりできるのは、なぜだろうか。

大規模な農業

アメリカ合衆国の農産物の生産量は世界でも有数で、小麦、とうもろこし、大豆などが広大な土地を利用して作られています。農家は大型機械を使い、少ない人手で、高い生産性を上げています。以前は、多くの場合、農業は家族数人で行われていました。しかし現在は、労働者を雇うなどして、利益を上げることを目的とした企業的な農業経営が多くなっています。このように多くの農産物を生産するアメリカ合衆国は、世界最大の農産物輸出国になっています。

自然環境に合わせた農業

アメリカ合衆国は、地域の気候や土壌などの自然環境に合わせた適地適作の農業が行われています。とうもろこしや大豆などは、西経100度付近から東側の降水量が比較的多い地域を中心に栽培されています。一方、西経100度から西側は、降水量が少なく牧草地として利用され、肉牛の放牧が盛んです。また、グレートプレーンズなどの内陸部には豊富な地下水があり、これを利用した大規模なかんがい農業がみられ、

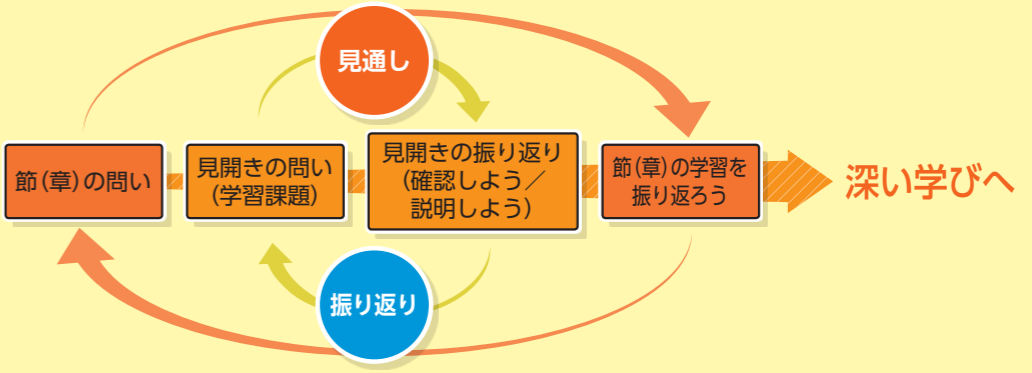
p.100-101

学習課題 北アメリカ州で、農産物を大量に生産したり、輸出したりできるのは、なぜだろうか。

ポイント

深い学びにつながる「問い」のイメージ

本教科書は右のイメージのように、節(章)の問いを受けた「問い」を各見開きに設置しています。こうして見通し・振り返り学習を積み重ねることで、課題を追究していけるよう「問い」を構造化しています。



確認しよう
アメリカ合衆国の農業は、西経100度を境に東西でどのような違いがあるのか、図3を見て確認しよう。

説明しよう
アメリカ合衆国が農産物を大量に輸出できる理由について、「広大な土地」と「適地適作」の語句を使って説明しよう。

見開きの紙面構成の詳しい説明は次のページへ

2 「地理的な見方・考え方」を働かせて説明しよう >> 思考力、判断力、表現力

世界に与えている影響

農業

生活・文化

工業

地域でみられる特色

特色の資源

アメリカ合衆国の特色と世界に与えている影響をまとめた例

ステップ1 この州の特色と詳細を整理しよう

アメリカ合衆国の生活・文化の特色や、世界に与えている影響について、p.106のキーワードや教科書を振り返りながら、図3の①、②の空欄を埋めよう。

ステップ2 「節の問い」への考えを説明しよう

作業1 アメリカ合衆国の産業がどのように発達してきたのか、図3を参考に説明しよう。

作業2 アメリカ合衆国を中心に巨大な産業が発達した結果、地域にどのような影響が生じているのだろうか。地理的な見方・考え方を働かせて、節の問いに対するあなたの考えを、「適地適作」と「大量生産方式」の語句を使って説明しよう。

ステップ3 「発展」持続可能な社会に向けて考えよう

作業1 大量消費の生活様式には、どのような課題があるのか、図3を参考に考えよう。

作業2 持続可能な社会を実現するためには、どのようなことに注意する必要があるか、大量消費の生活様式の課題を踏まえて考えよう。

作業3 グループになり、どのような取り組みを優先的に行うことが大切か、話し合おう。また、私たちにできる取り組みはないか、話し合おう。

私たちにの関わり
日本の資源自給率を、p.156の図2で確認しよう。また、私たちの生活のなかで、大量消費しているものはないか、考えよう。

7 「節の問い」に関連が深い見方・考え方
ほかの場所への影響、地域全体の傾向 (→巻頭7)

p.107

「学習を振り返ろう」の詳しい説明は本資料p.33-34に掲載

3 深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造

②見開きの構造

各見開きでも見通し・振り返り学習がしやすい紙面構造になっています。各見開きの学習内容は、節(章)の問いを受ける形で学習課題を設置し、展開できるようにしています。

ポイント

節(章)と見開きの「問い」の関係

各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」でつかんだ学習内容の積み重ねが、「節(章)の問い」の追究につながります。



「節(章)の問い」と各見開きの「問い(学習課題・確認しよう・説明しよう)」の関係イメージした図

導入資料

見開きの学習内容の核心をつき、かつ、生徒に「なぜ」を抱かせる資料を掲載しています。



広大な小麦畑での収穫作業(アメリカ合衆国、コロラド州)

大型コンバインを使って収穫を請け負うコンバインクルーの話

5～9月までの間、収穫時期に合わせて契約した農家の畑の小麦を次々と収穫していくんだ。どの農地も自分の現在地が分からなくなるほど広大だから、人工衛星を使ったシステムで位置を確認しているよ。収穫が終わったらコンバインをトラックに積んで、次の畑まで何百kmも移動するんだ。3か月の移動距離は、日本の北海道から沖縄よりも長いんだよ。



コンバインクルーの移動ルートの例(Goode's World Atlas 2010, ほか)



学習課題

見開きの学習でおさえるべき目標を示しています。毎時の学習内容を見通すことができます。

3 大規模な農業と多様な農産物

	アメリカ合衆国	日本
1人あたりの耕地面積(ha)	60.5ha	1.7ha
1人あたりの穀物収量(t)	185.9t	4.8t

アメリカ合衆国と日本の農業の比較(2016年)(FAOSTAT, ほか) 資料活用 アメリカ合衆国と日本の農業の規模を比べよう。

	アメリカ合衆国	フランス	ドイツ	アルゼンチン	その他
小麦	12.0%	9.3%	7.9%	3.4%	31.6%
大豆	42.0%	38.2%	12.4%		
とうもろこし	38.0%	16.6%	14.8%	7.5%	23.1%
総産出額	36.4%	12.8%	11.9%	0.6%	28.3%

世界の主な農産物の輸出に占めるアメリカ合衆国とカナダの割合(2016年)(FAOSTAT)

100

p.100-101

北アメリカ州で、農産物を大量に生産したり、輸出したりできるのは、なぜだろうか。

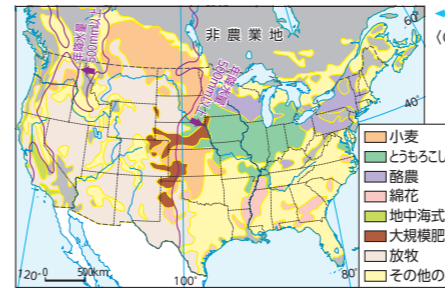
大規模な農業 アメリカ合衆国の農業は、収穫の様子を見ても、とても大規模であることが分かります。アメリカ合衆国の農産物の生産量は世界でも有数で、小麦、とうもろこし、大豆などが広大な土地を利用して作られています。農家は大型機械を使い、少ない人手で、高い生産性を上げています。以前は、多くの場合、農業は家族数人で行われていました。しかし現在では、労働者を雇うなどして、利益を上げることを目的とした企業的な農業経営が多くなっています。このように多くの農産物を生産するアメリカ合衆国は、世界最大の農産物輸出国になっています。

自然環境に合わせた農業 アメリカ合衆国では、地域の気候や土壌などの自然環境に合わせた適地適作の農業が行われています。とうもろこしや大豆などは、西経100度付近から東側の、降水量が比較的多い地域を中心に栽培されています。一方、西経100度から西側は、降水量が少なく牧草地として利用され、肉牛の放牧が盛んです。また、グレートプレーンズなどの内陸部には豊富な地下水があり、これを利用した大規模なかんがい農業がみられ、

円形農地に囲まれた肥育場(フィードロット)(右)とスプリンクラー(下)とともにアメリカ合衆国、テキサス州) 地下水をくみ上げ、回転するスプリンクラーで散水するので、農地は円形になり、ここで栽培された穀物が肥育場の肉牛のえさになっています。



世界の諸地域 北アメリカ州



アメリカ合衆国とカナダの主な農業地域 (Goode's World Atlas 2010, ほか)

小麦やとうもろこしなどが栽培されています。カリフォルニア州などの温暖な地域では果樹や野菜が栽培されており、収穫など農作業の多くはヒスパニックの人々によって支えられています。大西洋岸や五大湖周辺では酪農が盛んで、ニューヨークやシカゴなどの大都市に乳製品を供給しています。温暖な南部では、早くから広大な畑で綿花が栽培されていましたが、現在はその規模が縮小し、燃料用・飼料用の大豆やとうもろこしの栽培が増えてきています。

世界の食料庫とそれを維持する巨大企業 アメリカ合衆国は、日本をはじめ世界の多くの国々が農産物をこの国から輸入しているため、「世界の食料庫」とよばれています。そのため、アメリカ合衆国で干ばつが起きて農作物が不作となり、価格が値上がりすると、農産物を輸入に頼っている国々は大きな影響を受けます。アメリカ合衆国には、気象や作付けの情報提供、農作物の種子の開発、農産物の流通から販売など、農業に関連することを専門に扱うアグリビジネスを行っている企業があります。その中でも、穀物メジャーは主に穀物を扱う巨大企業で、これらの企業の動きは、世界の穀物の流通に大きな影響を与えています。

大規模な肥育場(フィードロット)(アメリカ合衆国、テキサス州) 放牧地で1～2年程、放牧された肉牛が、出荷前に集められる施設です。フィードロットでは、栄養が多いえさが与えられ、肉質をよくしてから出荷されます。

解説 穀物メジャー アグリビジネスを行う企業の中でも特に規模が大きく、世界の農産物の流通をコントロールする程の力をもっている巨大な穀物商社のことを、穀物メジャーといいます。

アメリカ合衆国の農業は、西経100度を境に東西でどのような違いがあるのか、図6を見て確認しよう。

アメリカ合衆国が農産物を大量に輸出できる理由について、「広大な土地」と「適地適作」の語句を使って説明しよう。

101

確認しよう

本文や図版から、学習上大切な事項を書き出す作業です。正しく文章を読む力(読解力)を養い、知識の確実な習得を促しています。

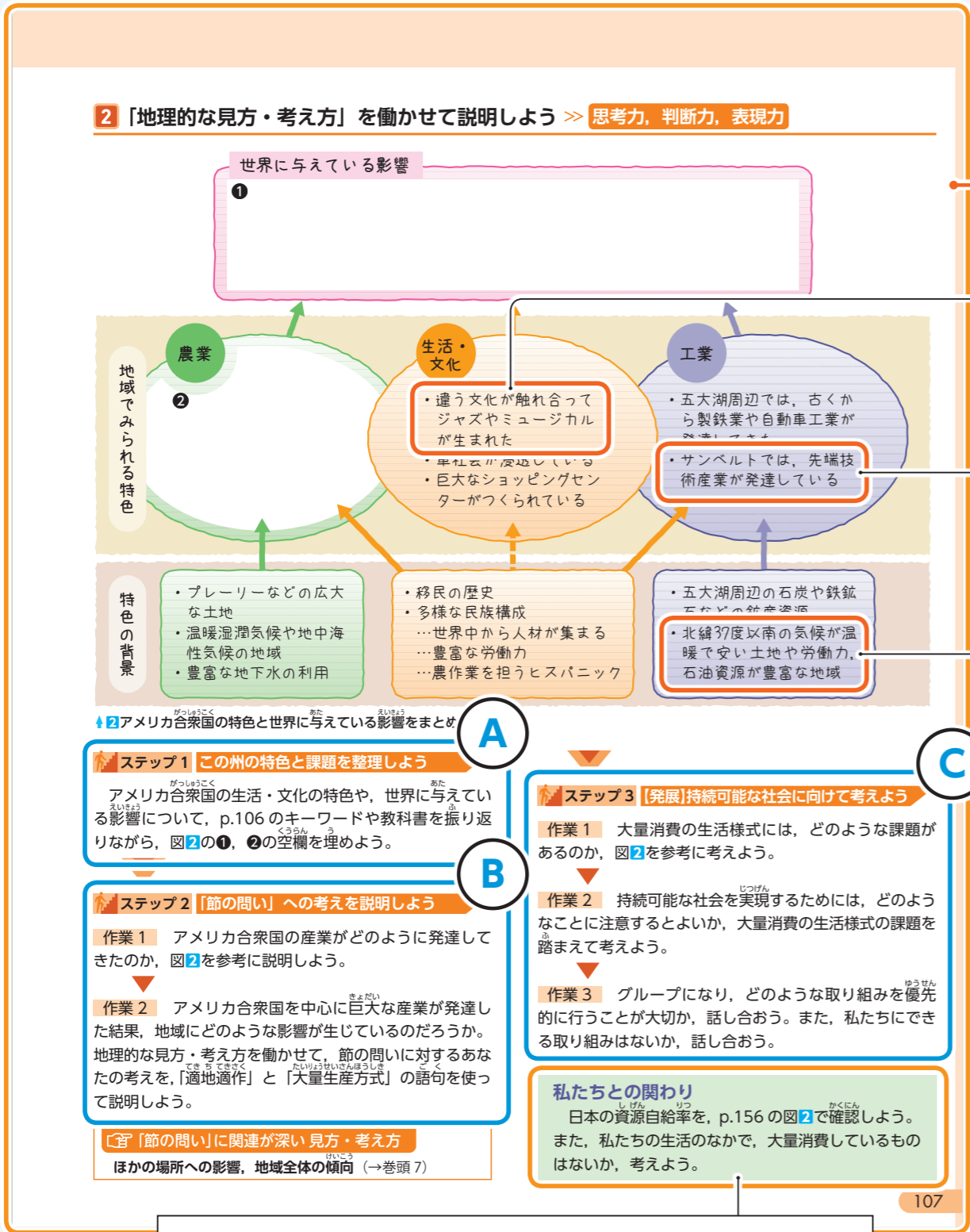
説明しよう

学習内容を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につながる問いです。思考力・判断力・表現力の育成を促しています。

次ページ「学習を振り返ろう」へ

3 深い学びにつながる「問い」 見通し・振り返り学習がしやすい構造 ③「学習を振り返ろう」

「節(章)の問い」を受けて、単元末に「学習を振り返ろう」を設置しています。「地理的な見方・考え方」を働かせて課題を振り返り、思考力・判断力・表現力を高めながら、「深い学び」を実現できる構成にしています。



p.107

最後に私たちがとの関わりについて、考える問いを設定しています。この問いは、第4部の「地域の在り方」を構想する際のヒントにもなります。

左ページ：知識の確認

右ページ：思考・判断・表現

学習を振り返ろう

▶ 左ページで知識を確認し、右ページで「節(章)の問い」を追究する中で、思考力・判断力・表現力を高める構成にしています。

説明しよう

北アメリカ州に多様な民族が集まったことによって生じた変化を一つ挙げ、説明しよう。 p.99の「説明しよう」

説明しよう

アメリカ合衆国で先端技術産業が盛んになった背景について、「サンベルト」の語句を使って説明しよう。 p.103の「説明しよう」

図2では、各見開きの本文や「確認しよう」「説明しよう」を活用して、地域的特色がまとめられることを解答例の形で提示しています。

ステップ1

州の地域的特色をまとめる

▶ 「節の問い」に答えるために、まず各州の特色をまとめます。

▶ 地域的特色のポイントが端的にわかるよう図解しています。

▶ 生徒の参考となる解答例を掲載しています。

作業1の解答例

アメリカ合衆国は多様な自然環境と世界中から集まる豊富な人材を生かして産業を発展させた。など

作業2の解答例

アメリカ合衆国は、適地適作で多くの農産物を生産し、世界中に輸出している。また、工業では大量生産方式のしくみが世界中に普及するようになった。など

ステップ2

節の問いに対して自分の答えを整理する

▶ ステップ1での整理をもとに、「節の問い」への自分なりの答えを思考・判断し、文章に表現します。

作業1の解答例

使用する以上の物が大量に生産されるため、余った物が廃棄されるという課題が生じる。など

作業2の解答例

必要な量を考えて生産を行い、余った物はリサイクルする。など

ステップ3

節の問いの答えをもとに多角的に課題を考察する

▶ 地域が抱える課題に対して、話し合いなどを通し、改善・解決の道筋を自分なりに考察します。

深い学びへ